

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	未来につながる暮らしのために すべての子どもに「家庭」を実践する事業
事業主体 (連絡先)	子どもの育ちを支える会 塩尻市大字塩尻町435-2
事業区分	(2) 保険、医療、福祉の充実に係る事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	858,497円 (うち支援金: 657,000円)

事業内容

子どもの育ちを支える会では、里親制度について理解を促す新しい試みとして啓発用絵本「里親って なあに？」を制作を実施。里親に対する社会一般的の認知度の低さや、子どもを受け入れてくださる里親家庭の不足などの様々な問題が、子どもたちが「家庭」で暮らせる機会を奪っている現状を踏まえ、絵本というツールを用いて、里親に対する正しい理解を促すため、里親や乳児院の職員の皆さんの意見を取り入れて絵本、ガイドブック、チラシを制作。

- ・絵本等制作：4月～9月
- ・プレスリリース：10月9日
- ・絵本配布：10月～11月上旬

事業効果

- ① 支援金を活用して、絵本200冊、ガイドブック200冊、チラシ1,000部を制作。
- ② プレスリリースに信濃毎日新聞、MGプレス、中日新聞、市民タイムスが取材をし紙面に紹介されたことで、一般の方の問い合わせもあり1か月の間に200冊が希望者に届けられた。継続して、テレビ松本等の取材が入り広く絵本をツールに里親制度の周知が広がった。

今後の取り組み

絵本(2刷り)、ガイドブックの増刷をしていく予定。市町村の里親制度説明会場での読み聞かせの実施や、学校図書館等に絵本を入れていただけるような展開をしていきたい。
活動を継続させるために、引き続き松本赤十字乳児院や中信地区里親会、児童相談所と連携し、市町村の里親理解を促すツールとして絵本を活用し意識啓発と里親育成に取り組む。



【 絵本 】

【目標・ねらい】

- ① 絵本等制作
- ② 里親制度理解の広報啓発

※自己評価【 A 】

- 【理由】
- ・200冊全て手渡せた。
 - ・絵本をツールに里親家庭に子どもが繋がる実績ができた。
 - ・一般の方の申し込みが約50%。里親を知るきっかけとなった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある